

「豊岡市立小中学校における適正規模・
適正配置のあり方について」答申

2021年2月10日

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会

目次

はじめに	2
第1章 豊岡市の小中学校をめぐる現状と課題	3
1 豊岡市の人口と将来推計	3
2 学校別児童生徒数の今後の見込み	5
3 学校規模の現状と今後の見込み	7
4 学校規模による課題	9
第2章 豊岡市のめざす教育 ～教育委員会より～	10
第3章 豊岡市における小中学校の適正規模・適正配置のあり方	11
1 小中学校の適正規模・適正配置の検討にあたって	11
2 小中学校の適正規模の考え方	12
3 小中学校の適正配置の考え方	14
4 小中学校の適正規模・適正配置を実現するための学校再編	15
第4章 学校再編の具体的な枠組（案）	17
1 小学校の再編一覧	17
2 中学校の再編一覧	17
3 個別の再編枠組み（案）	18
第5章 学校再編を進めるにあたっての付帯意見	29
おわりに	31
資料編	32

資料1 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会設置条例

資料2 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会委員名簿

資料3 諮問書（写）

資料4 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会 開催経過・審議内容

資料5 小中学校のあり方意見交換会 開催結果等

資料6 小中学校配置図

資料7 小中学校の統合の沿革

はじめに

近年の急激な少子化により、子どもたちの教育環境に大きな変化が生じてきています。豊岡市内で複式学級を有する小学校^{*1}は、13年前（2007年）は3校であったのに対し、2020年には9校に増え、同級生がわずか数名という学年や、新入生がおらず、入学式を催すことができなかったという学校も出てきています。

今後も少子化が進む見込みである一方、新しい学習指導要領^{*2}では、「主体的・対話的で深い学び」をテーマとしています。これは、ある程度まとまった集団規模下において、より教育効果を高めることができるものと考えられます。また、豊岡市における教育方針を定めた「とよおか教育プラン（豊岡市教育振興基本計画）」で重視している、「非認知能力^{*3}（やり抜く力・自制心・協働性）」をより効果的に身につけるためにも、ある程度の集団規模が必要とされています。

こうした状況の下、2019年に、豊岡市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の主催により、教育懇談会が市内7会場で開催され、少子化による教育課題と複式学級の状況についての意見交換が行われました。参加された保護者からは、子どもの同級生が少ないことや、複式学級についての不安の声や、また、「学校統合を希望するが、地域には要望としてあげにくい。市主導で進めてもらえないか」という意見が多く寄せられました。

これを受け、2020年2月3日には、豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会（以下「審議会」という。）が設置され、教育委員会から、「豊岡市立小中学校における適正規模・適正配置のあり方について」諮問を受け、答申まで7回に渡り慎重な審議を重ねてきました。

審議の途中には、審議会としての中間報告をまとめ、2020年9月23日から10月6日に保護者向けとして市内6会場、10月13日から29日にかけて地域住民向けとして市内6会場の計12回に渡り「小中学校のあり方意見交換会」（以下「意見交換会」という。）が教育委員会の主催で開催され、延べ479名の参加がありました。

審議会での議論においては、それぞれの委員の立場で様々な意見がありましたが、「子どもたちにとってより良い教育環境とするには、学校はどうあるべきか」を第一に、また、意見交換会で寄せられた意見についても十分考慮し、取りまとめたものが、本答申です。

この答申が、豊岡市の将来を担う子どもたちにとって、より良い教育環境確保のための一助となることを願います。

¹ 学級編制基準上での複式学級の数

² 全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるよう、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準となる「学習指導要領」を定めている。新しい学習指導要領は、小学校では2020年度、中学校では2021年度から完全実施。

³ テスト等の数値では測定できない個人の特性による能力。

意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力。学力（認知能力）と対照して用いられる。学術研究によって、非認知能力の高さが学歴や雇用、収入に影響することが明らかになっていることから、幼児教育の分野で注目を集めている。非認知能力は、学力のように1人で身につけられるものとは異なり、集団での行動の中での困難や失敗、挫折等の経験を通して養われるものが多い。

第1章 豊岡市の小中学校をめぐる現状と課題

1 豊岡市の人口と将来推計

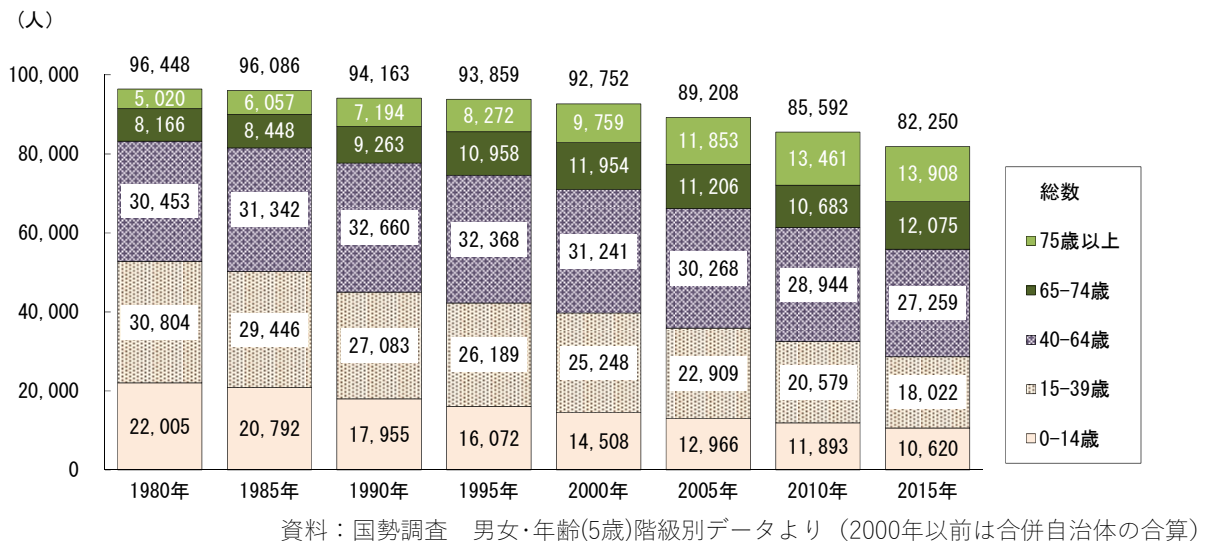
豊岡市の総人口は近年減少が続いており、2015年の国勢調査では82,250人となっています。年齢別にみると、特に39歳以下の若年人口が減少しています。(図1)

こうした人口減少にともない、豊岡市の14歳以下人口についても減少が続いており、1980年から2015年までの35年間に、半数以下(48.3%)に減少しています。(図2)

また、市独自の将来推計によると、2020年から2040年までの20年間で、小学生は52.8%、中学生は55.7%にまで減少するものと見込まれています。(図3)

■豊岡市の人口の推移

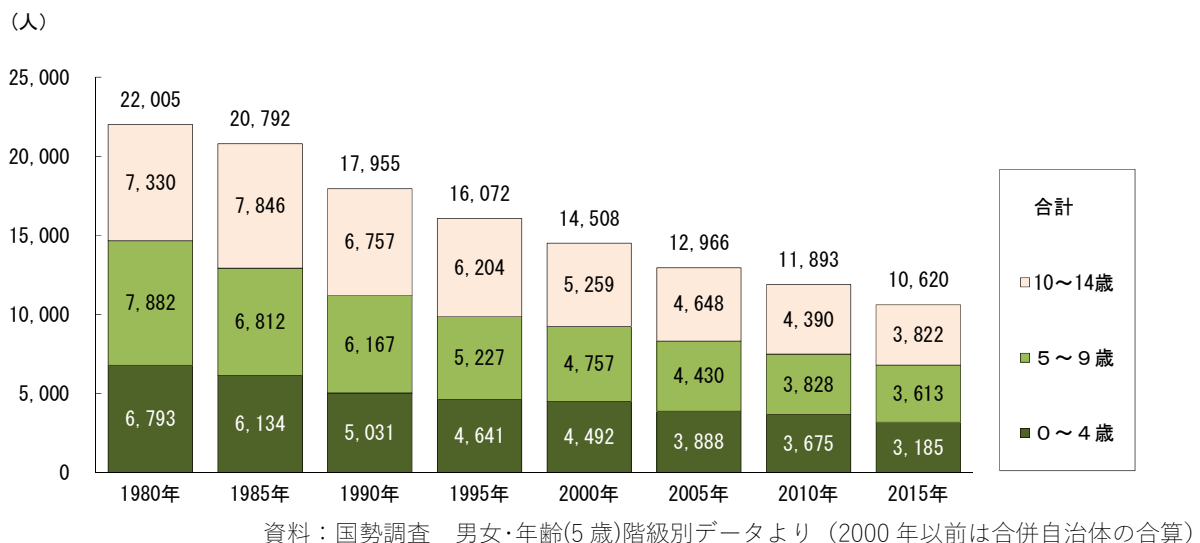
【図1】



※「総数」には年齢不詳を含むため、合計が合わない場合があります。

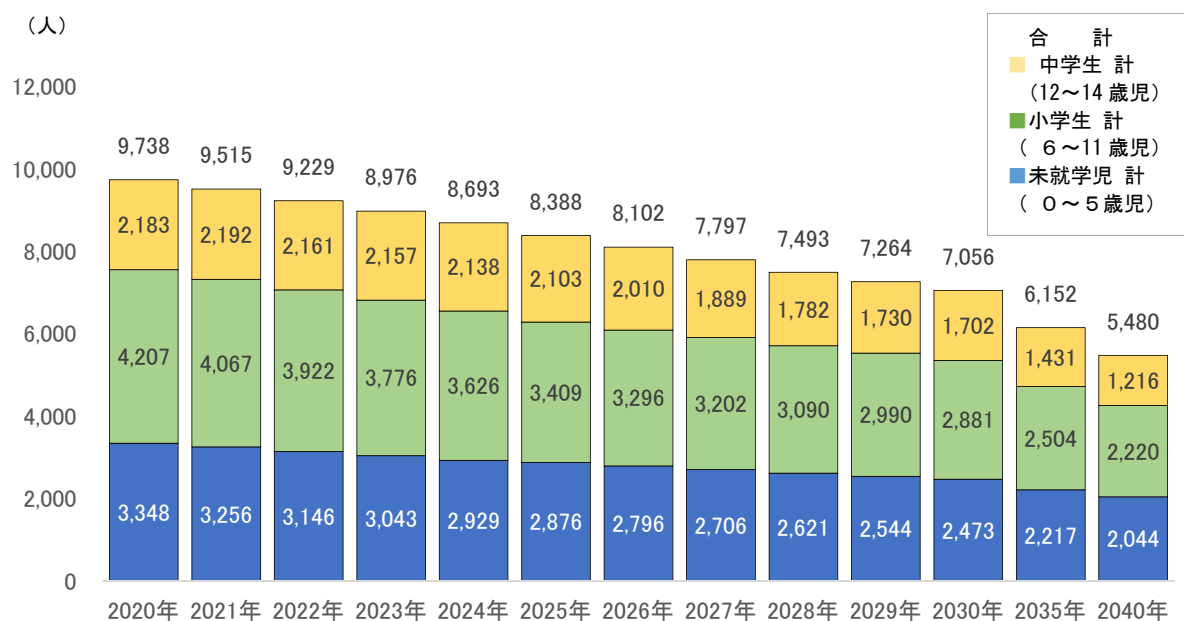
■豊岡市の14歳以下人口の推移

【図2】



■豊岡市の14歳以下人口の推計

【図3】



資料：豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画 データより

(各年4月1日時点、2020年は実績値)

2 学校別児童生徒数の今後の見込み

(1) 小学校

【表 1】

中学校区別	小学校名	2020年 小学生 児童数 (実績)	小1～小6 児童数合計 (見込み)						小1～小6 児童数合計 (推計)		
			2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2030年	2035年	2040年
豊岡南中	豊岡小	384	384	357	352	331	321	302	268	260	223
	内、豊岡南中学校区	210	205	196	191	176	160	141	145	138	121
	八条小	338	335	323	321	326	311	324	260	228	233
	三江小	148	142	136	124	120	118	121	93	79	65
	新田小	188	188	196	192	196	189	188	198	173	147
	中筋小	93	83	80	79	70	67	66	41	29	27
	神美小	125	125	116	110	102	89	88	66	60	53
	中学校区計	1,102	1,078	1,047	1,017	990	934	928	803	707	646
豊岡北中	豊岡小	384	384	357	352	331	321	302	268	260	223
	内、豊岡北中学校区	174	179	161	161	155	161	161	123	122	102
	田鶴野小	159	157	153	149	150	152	162	116	107	105
	五荘小	723	736	741	708	719	695	658	594	555	507
	奈佐小	35	28	25	16	15	17	12	9	5	4
	中学校区計	1,091	1,100	1,080	1,034	1,039	1,025	993	842	789	718
港中	港東小	50	45	42	43	42	37	36	30	22	21
	港西小	42	41	43	45	47	43	41	28	23	17
	中学校区計	92	86	85	88	89	80	77	58	45	38
豊岡計		2,285	2,264	2,212	2,139	2,118	2,039	1,998	1,703	1,541	1,402
城崎中	城崎小	153	160	144	144	134	118	112	88	91	80
城崎計		153	160	144	144	134	118	112	88	91	80
竹野中	竹野小	107	105	101	108	103	94	87	71	59	41
	中竹野小	23	24	19	21	18	20	20	16	11	8
	竹野南小	24	24	22	22	16	17	20	22	13	7
竹野計		154	153	142	151	137	131	127	109	83	56
日高東中	府中小	181	178	179	180	163	148	144	117	106	93
	八代小	37	31	27	22	20	11	12	10	5	4
	日高小	458	407	388	376	355	338	316	282	235	211
	静修小	43	42	37	35	39	35	38	29	20	16
	中学校区計	719	658	631	613	577	532	510	438	366	324
日高西中	三方小	123	116	108	98	87	81	76	70	49	44
	清滝小	82	81	74	79	70	61	63	54	37	27
	中学校区計	205	197	182	177	157	142	139	124	86	71
日高計		924	855	813	790	734	674	649	562	452	395
出石中	弘道小	227	213	212	192	181	161	148	124	108	93
	福住小	108	90	85	80	74	72	68	86	78	82
	寺坂小	25	28	31	30	29	30	27	21	11	8
	小坂小	90	91	88	83	75	64	61	63	47	45
	小野小	58	58	55	53	53	48	45	33	24	17
出石計		508	480	471	438	412	375	349	327	268	245
但東中	合橋小	64	64	66	65	58	55	47	38	27	22
	高橋小	28	22	23	20	19	21	17	16	12	6
	資母小	64	60	62	53	56	53	49	37	26	15
但東計		156	146	151	138	133	129	113	91	65	43
合計		4,180	4,058	3,933	3,800	3,668	3,466	3,348	2,880	2,500	2,221

※太文字・網掛けの学校は基準上で複式学級が生じている（生じる見込みの）学校

資料：2021年～2026年 住民基本台帳・各校在籍者からの見込み

2030年～2040年 幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画 データ より

（市立小の児童数推計のため、4ページ図3の数値とは一致しません）

(2) 中学校

【表 2】

中学校名	2020年 中学生 生徒数 (実績)	中1～中3 生徒数合計（見込み）							中1～中3 生徒数合計 (推計)	
		2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2030年	2035年	2040年
豊岡南中	555	560	554	543	532	533	493	446	386	335
豊岡北中	521	484	514	544	544	510	481	480	397	345
港中	62	49	51	42	42	43	47	46	26	22
城崎中	66	64	74	72	83	79	77	60	44	43
竹野中	71	81	78	69	70	63	70	56	48	36
日高東中	343	370	350	348	336	337	332	258	198	168
日高西中	102	99	95	98	101	101	94	64	52	37
出石中	238	251	235	235	236	245	237	169	143	116
但東中	83	85	71	73	67	76	78	54	42	32
合計	2,041	2,043	2,022	2,024	2,011	1,987	1,909	1,633	1,336	1,134

資料：2021 年～2030 年 住民基本台帳・各校在籍者からの見込み

2035 年、2040 年 幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画 データ より

（市立中の徒数推計のため、4 ページ図 3 の数値とは一致しません）

3 学校規模の現状と今後の見込み

学校規模は、国の法令上、小中学校とも12～18学級を標準としています。

豊岡市の現状（2020年度）をみると、小学校29校中、標準規模校は3校、大規模校は1校、小規模校は25校あります。また、小規模校のうち、複式学級が生じるほどの小規模校（ここでは、「極小規模校」とし、児童数が50人程度以下とします。）は、9校あります。（表3）

また、中学校9校中、標準規模校は2校、小規模校が7校あります。（表4）

(1) 小学校

【表3】

	2020年度	2035年度（推計）
大規模校	五荘小（1校）	なし
標準規模校	豊岡小、八条小、日高小（3校）	豊岡小、八条小、 五荘小 、日高小（4校）
小規模校	三江小、田鶴野小、新田小、中筋小、神美小、城崎小、竹野小、府中小、三方小、清滝小、弘道小、福住小、小坂小、小野小、合橋小、資母小（16校）	三江小、田鶴野小、新田小、神美小、城崎小、竹野小、府中小、弘道小、福住小（9校）
極小規模校	奈佐小、港東小、港西小、中竹野小、竹野南小、八代小、静修小、寺坂小、高橋小（9校）	奈佐小、 中筋小 、港東小、港西小、中竹野小、竹野南小、八代小、静修小、 三方小 、 清滝小 、寺坂小、 小坂小 、 小野小 、 合橋小 、高橋小、 資母小 （16校）

※2020年度時点の小学校で表しています。

2020年度と2035年度で規模が変わる学校については、**太文字・網掛け**で表しています。

(2) 中学校

【表4】

	2020年度	2035年度（推計）
大規模校	なし	なし
標準規模校	豊岡北中、豊岡南中（2校）	豊岡北中、豊岡南中（2校）
小規模校	港中、城崎中、竹野中、日高東中、日高西中、出石中、但東中（7校）	港中、城崎中、竹野中、日高東中、日高西中、出石中、但東中（7校）

【表 5】

(参考) 学校規模に関する国・県の基準

【国の基準】

(2020 年度時点)

- 法令では学校規模を学級数で示しています。
小学校・中学校ともに標準学級数は「12 学級以上 18 学級以下」とされています。
(学校教育法施行規則第 41 条及び第 79 条)
- 1 学級の児童生徒数の標準については、次のとおりとされています。
(公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第 3 条)

	小学校	中学校
同学年の児童で編制する学級	35 人 (1 年生)	40 人
	40 人 (2～6 年生)	
複式学級 (2 個学年)	16 人 (1 年生を含む場合 8 人)	8 人

【兵庫県の基準】

- 兵庫県では、1 学年の児童生徒数の標準を次のとおりとされています。
〔学級編制基準及び教職員定員配当方針 (2018 改正 兵庫県教育委員会)〕

	小学校	中学校
同学年の児童で編制する学級	35 人 (1 年生)	40 人
	40 人 (2～6 年生)  (新学習システムにより) 35 人 (2～4 年生) 40 人 (5・6 年生)	
複式学級 (2 個学年)	14 人 (1 年生を含む場合 8 人)	なし※

※兵庫県は中学校について、複式学級の編制基準を設定していないため、公立中学校に複式学級はありません。

4 学校規模による課題

小規模校の一般的なメリット・デメリットについては次のとおり（一例）です。（表6）

これは、文部科学省が都道府県・市町村の計画等を参考に作成した資料から抜粋したものです。豊岡市でも、極小規模校の小学校長から、同様の意見が出されています。特に複式学級のある極小規模校では、メリットよりもデメリットの方が大きくなると言えます。

また、保護者からは、子どもの同級生が極端に少ないことや、複式学級での授業についての不安の声も出ており、このことを理由に、他の学校区に転居してしまう事例も生じているとの報告もあります。

【表6】

項 目	メリット	デメリット
学 習 面	・児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。	・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・1 学年 1 学級の場合、ともに努力してよりよい集団をめざす、学級間の相互啓発がなされにくい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ・児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導等、多様な学習・指導形態を取りにくい。 ・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生 活 面	・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	・クラス替えが困難なこと等から、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学校運営	・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。 ・施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	・教職員数が少ないため、経験、教科、特性等の面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ・教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。
その他	・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

第2章 豊岡市のめざす教育 ～教育委員会より～

ふるさと豊岡を愛し 夢の実現に向け挑戦する子どもの育成 ～非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～

豊岡市は、2020年2月に「第4次 とよおか教育プラン」を策定しました。新たなプランでは、第3次計画に引き続き、基本理念を「ふるさと豊岡を愛し 夢の実現に向け挑戦する子どもの育成」と設定し、あわせて、これまでの方向性を発展させるものとして「非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）」を重視し焦点化したものとしています。

ふるさとの「ひと・もの・こと」と出会い、体験を通して学びながら夢や目標を持ち、その実現に向けて挑戦するために必要な非認知能力を伸ばすことが基本理念の実践の方向であると考えています。

また、豊岡市では、全国に先駆けて、2007年度から小中連携教育に取り組んできました。2017年度からは、9年間の系統性と一貫性のあるカリキュラムを実践するため、小中一貫教育「豊岡こうのとりプラン」を公立の全9中学校区において実施しています。2020年度からは、特に「授業でつながる小中一貫教育」をテーマとし、子どもたちの“生きる力”を育むための取組として充実を図っています。

「豊岡こうのとりプラン」の中心となる取組は、「ふるさと教育」、「英語教育」、「コミュニケーション教育」の3つの柱で構成する「ローカル＆グローバル学習」の実践です。

3つの教育をバランスよく実践することが、子どもたちの生きる力を育み、「小さな世界都市」をめざす豊岡の未来を創造する力を持った子どもを育てていくことにつながっていくものと考えています。

第3章 豊岡市における小中学校の適正規模・適正配置のあり方

1 小中学校の適正規模・適正配置の検討にあたって

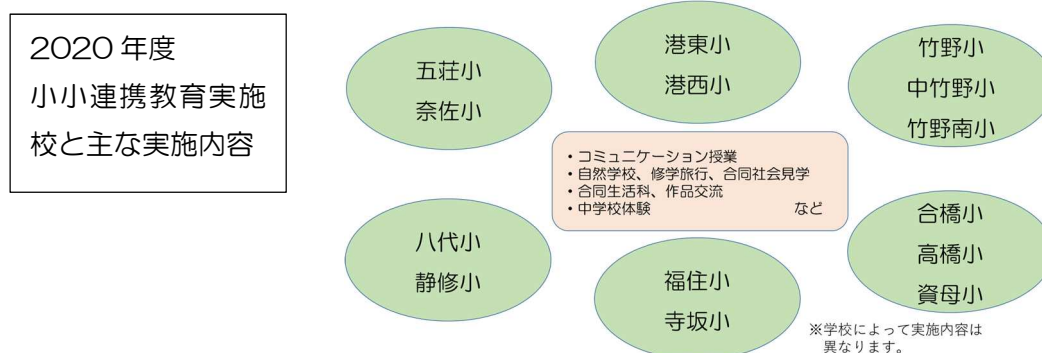
(1) 検討の必要性

豊岡市における学校規模の現状を踏まえたうえで、小規模校には小規模校の良さがあり、それを活かすことができないかという考えから、まずは、市が実施している、小小連携の取組※の拡充により、課題解消を図ることができないか議論しました。しかし、授業の進度調整や事前の打ち合わせ、学校間の移動等、様々な制約が生じることから、今以上に回数を増やすことは難しい状況にあります。

特に、複式学級が生じるほどの極小規模校については、小規模校の良さよりも課題の方が大きくなるため、「学校規模の適正化は必要である」と考えました。

※小小連携の取組

小規模校における教育課題の軽減を図るため、連携する学校の実態に応じて、年に数回、合同で授業を行う等の取組を行っています。(図4)



【図4】

(2) 基本的な視点

ア 子どものことを第一に考えた議論

学校施設の第一の受益者である子どもの視点にたって、「次代を担う豊岡の子どもたちにとって、より良い教育環境とするために、学校はどうあるべきか」ということを最優先に検討し、適正な学校の規模や配置について議論しました。

イ 現行の法令等に基づいた議論

適正な学校規模の考え方や配置の方策については、あくまでも現行の法制に基づいたうえでの議論としています。したがって、本答申における「学校規模」とは、基本的には「各学校の学級数」としています。仮に今後、学級編制の基準や教職員定数標準の変更等、国の法令や制度が改正されると、今回取りまとめた適正規模の目安も変更される可能性があります。

2 小中学校の適正規模の考え方

(1) 基本的な考え方

ア 学習指導要領へのより効果的な対応

新しい学習指導要領で重要な要素とされている、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、ある程度の集団規模の中で、多様な学習形態を取り入れた教育を可能にする学校規模が望まれます。

イ 複数学級の確保

クラス替えは、人間関係に変化を持たせることができ、友だちを増やす機会にもつながります。また、切磋琢磨し合える環境となるだけではなく、新たな仲間と出会うことで、自分自身の再発見にもつながります。このため、各学年に複数の学級を確保することが望まれます。

ウ 非認知能力*の育成

児童生徒は、集団生活の中で豊かな人間関係を築きながら、多様な考え方に触れ、また、他者の頑張る姿勢や応援を力として、「やり抜く力・自制心・協働性」といった力（非認知能力）を身につけることができると言われています。そのためには、ある程度の集団規模を確保することが望まれます。

※非認知能力… 2 ページ、10 ページ参照

エ 集団での教育活動等の充実

運動会（体育祭）や学習発表会、中学校の部活動等様々な学校教育活動の充実を図るためにも、一定程度の児童・生徒数と教職員数が確保された学校規模が望まれます。

オ 教員の人数の確保と質の向上

配置される教員の数については、学級数によって決まるため、人数を確保するためには、ある程度の学校規模が必要となります。

教員数が確保されることにより、次のような効果が期待でき、質の向上にもつながるものと考えます。

- (ア) 経験、教科、特性等の面でバランスよく教員を配置することができる。
- (イ) 学年別や教科別の教員同士で相談がしやすくなる。
- (ウ) 円滑な学校運営を行うことができる。
- (エ) 教員の負担軽減につながる。

(2) 望ましい学校規模（理想とする姿）

ア 小学校の規模の考え方

小学校では、多様な人間関係を築くうえでクラス替えを可能とし、また同学年に複数教員を配置するうえでも、国の基準を「望ましい学校規模」とします。

イ 中学校の規模の考え方

中学校では、教科担任制であることから、生徒の学習等に影響がないよう、全教科に十分な教員配置を行う必要性や、多様な部活動を可能にするうえでも一定数の生徒と教職員を確保する必要があることから、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（2015年1月）（以下「国の手引」という。）に記載されている基準を「望ましい学校規模」とします。

望ましい学校規模（理想とする姿）

ア 小学校 12～18 学級（各学年 2～3 学級）

イ 中学校 9～18 学級（各学年 3～6 学級）

(3) 最低限確保したい学校規模（下限の目安）

広大な面積を有する豊岡市においては、学校再編を行ったとしても、実質的に「望ましい学校規模」を確保することが困難な学校が多い状況です。したがって、これとは別に、①各学年 1 学級以上を確保し、②単学級であっても、複数のグループを編成しての学習が可能となる人数を確保する「最低限確保したい学校規模（下限の目安）」を設けることとします。

最低限確保したい学校規模（下限の目安）

ア 小学校 6 学級以上（各学年 1 学級以上）

イ 中学校 3 学級以上（各学年 1 学級以上）

（小中学校とも、各学年 20 人程度以上）

3 小中学校の適正配置の考え方

(1) 基本的な考え方

ア 通学距離・通学時間の考慮

豊岡市は、市域の約 8 割を森林が占め、697.55 平方キロメートルという東京 23 区よりも広大な面積の中に、小学校 29 校、中学校 9 校が点在しています。

このため、通学距離・通学時間の負担が大きくなり過ぎないように、適正配置を考慮する必要があります。

イ 地域特性の考慮

地域の歴史や学校との社会的なつながり等の地域特性を考慮する必要があります。

(2) 小中学校の適正配置

ア 国の基準

適正な通学距離は、法令（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第 4 条）において、小学校は概ね 4km 以内、中学校は概ね 6km 以内とされています。

他方、「国の手引」では、適切な交通手段が確保でき、遠距離通学や長時間通学によるデメリットを一定程度解消できる見通しが立つ場合には、通学時間について、「概ね 1 時間以内」を目安とすることとされています。

イ 豊岡市の考え方

市の広大な面積を考えると、児童生徒の通学条件を通学距離だけで設定することは実情に合わないことから、豊岡市における学校の適正配置は、①通学時間と②旧市町ごとの歴史的・社会的背景に配慮した学校配置とするため、次のとおりとします。

(ア) 通学時間は、小中学校とも概ね 1 時間以内とする

※遠距離では、交通手段の確保が前提

(イ) 小学校の再編は、原則、同一中学校区内とする

(ウ) 中学校の再編は、原則、旧市町域内とする

〔 旧市町域内に小・中とも 1 校は存続させる
(ただし、地域の実情により例外あり) 〕

※ 1 時間という通学時間は、特に低学年の児童には負担が大きいため、安全性を考慮したうえで可能な限り負担軽減・時間短縮を図る必要があります。

4 小中学校の適正規模・適正配置を実現するための学校再編

(1) 学校再編の手法の検討

審議会では、学校規模の適正化を図るための主な手法として、①通学区域の見直し、②小規模特認校の導入、③学校の統合について議論しました。

ア 通学区域の見直し

これまで培ってきた地域コミュニティを分断してしまう等、課題が大きいことから、適切ではないと考えます。

イ 小規模特認校^{※4}の導入

児童・生徒数を増やすための方法の一つとして議論しましたが、その効果は一時的・限定的であり、複式学級の解消にはつながらないこと、また、逆に近隣の小規模校では児童・生徒の流出につながる等、課題も多いことから、導入するべきではないとの結論に至りました。

ウ 学校の統合

上記「ア」、「イ」の検討を踏まえ、豊岡市においては、学校統合を基本に学校再編を進めるべきという結論に至りました。

また、再編により、旧市町域内に小中学校とも1校となり、かつ、教育環境や敷地・施設の面等で要件が満たされる場合には、小学校と中学校の施設を一体的に設置する「施設一体型小中一貫校^{※5}」として再編・整備を検討する必要があると考えます。

(2) 学校再編の進め方

豊岡市における小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方に基づき、次のとおり、学校再編を段階的に進める必要があると考えます。

ア 複式学級のある小学校を最優先とする

小学校においては、複式学級の解消を最優先課題とし、既に、複式学級のある学校について再編を進め、今後、複式学級が継続的に生じると見込まれる学校については、複式学級が生じる前に再編に向けての調整を開始し、解消を図る必要があります。

イ 小規模化による中学校の課題を解消する

中学校においては、小規模化により、集団活動や部活動等で制約が生じるなど、課題が大きくなる学校を対象に再編を進める必要があります。

ウ 学校規模の確保に向けた検討を開始する

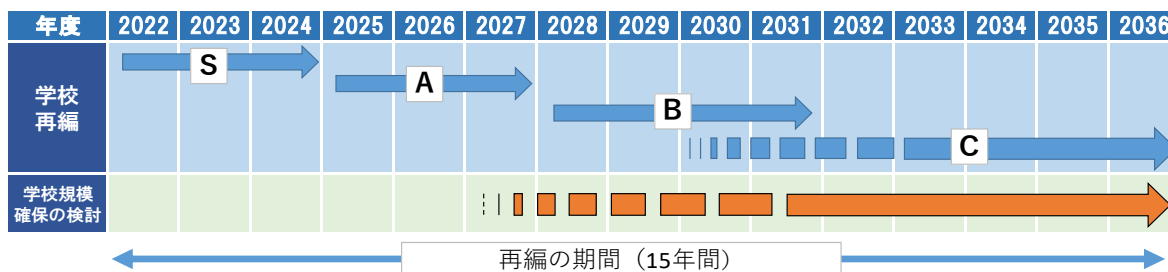
最低限確保したい学校規模（下限の目安）を目指して、今後の児童・生徒数の動向を踏まえながら、将来的な学校のあり方について、保護者、地域、学校及び教育委員会が一緒になって検討を始める必要があります。

(3) 再編の期間と優先順位

答申における再編の期間を今後10～15年間とし、次の優先度の順で進めていく必要があります。

【再編時期の目安】

【図 5】



S：最優先 A：やや急ぐ B：5～10年後 C：11～15年

優先度S

・既に複式学級が生じている小学校

優先度A～C

- ・将来的に複式学級が生じると見込まれる小学校
- ・小規模化による課題が生じている（生じる）中学校

※今後10～15年間での再編により、複式学級は解消できる見込みとしています。

将来的には、旧市町域を越えた再編についても検討が必要になると考えますが、今後の少子化の状況や、交通情勢、ICT技術の進展等を踏まえ、学校のあり方について、あらためて検討をするべきと考えます。したがって、本答申の再編では、本市の適正配置の考え方にに基づき、原則として、旧市町域内の範囲を上限として再編案を考えることとしています。

(4) 大規模校への対応

豊岡市では、五荘小学校が唯一、大規模校となっていますが、今後、五荘小学校においても少子化による児童数の減少が進むことが予想され、概ね10年以内には標準規模（12～18学級）となる見込みであることから、再編等は行わず、現状のままとします。

⁴ 小規模特認校

小規模校について、市内の他の校区からの入学を認める制度

⁵ 施設一体型小中一貫校

小中学校を同一敷地内に置き、小中一貫教育を行う学校のことで、次のような効果が期待できます。

- ・同じ敷地内で、小中9年間の一貫したカリキュラムに基づいた計画的・継続的な教育活動を行うことができる。
- ・中学校入学にあたって安心感をもつことができる。（いわゆる中1ギャップの解消）
- ・小学校において教科担任制等を導入しやすい。
- ・その地域独自の、特色を持ったカリキュラムの編成が可能となる。
- ・小規模校のデメリットである児童・生徒の人間関係の固定化の課題軽減が期待できる。
- ・学校行事を小中合同で実施できることで、集団活動や活躍の場を広げることができる。

第4章 学校再編の具体的な枠組（案）

学校再編の具体的な枠組み（案）と優先度は次の通りです。（表7、表8）

1 小学校の再編一覧

【表7】

中学校区	検討対象校	No.	再編案	優先度
豊岡南中	中筋小学校	1	中筋小 + 新田小 (中筋小 + 新田小 + 神美小も視野に入れた検討)	B
港中 城崎中	港小学校 (港東小+港西小)	2	港小 + 城崎小	C
竹野中	中竹野小学校 竹野南小学校	3	(竹野小 + 中竹野小) + 竹野南小 ※竹野中の敷地内に校舎を新設し、施設一体型小中一貫校とする	S
日高東中	八代小学校 静修小学校	4	八代小 + 静修小 + 日高小	S
日高西中	三方小学校 清滝小学校	5	三方小 + 清滝小	C
出石中	寺坂小学校	6	寺坂小 + 福住小	S
	小野小学校	7	小野小 + 小坂小	A
但東中	高橋小学校	8	高橋小 + 合橋小	S
	合橋小学校 高橋小学校 資母小学校	9	高橋小 + 合橋小 + 資母小 ※但東中の敷地内に校舎を新設し、施設一体型小中一貫校とする	A

※No.2 港小と城崎小については、旧市域内での再編の例外とする。

※No.8、No.9については、高橋小学校の複式学級の早期の解消と、小中一貫校の施設整備の検討が必要なことから、段階的な再編とする。

2 中学校の再編一覧

【表8】

検討対象校	No.	再編案	優先度
港中学校 城崎中学校	10	港中 + 城崎中	B
日高西中学校	11	日高西中 + 日高東中	C

※No.10 港小と城崎小については、旧市域内での再編の例外とする。

S：最優先

A：やや急ぐ（6年以内に複式）

B：5～10年後

C：11～15年後

3 個別の再編枠組み（案）

(1) 小学校の再編

No.1 中筋小学校、新田小学校の再編

■検討対象校：中筋小学校

児童数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>中筋小</td><td>93</td><td>6</td><td>41</td><td>5</td></tr><tr><td>新田小</td><td>188</td><td>7</td><td>198</td><td>6</td></tr><tr><td>合 計</td><td>281</td><td>—</td><td>239</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		児童数	学級数	児童数	学級数	中筋小	93	6	41	5	新田小	188	7	198	6	合 計	281	—	239	—		<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>39</td><td>2</td></tr><tr><td>2 年</td><td>40</td><td>2</td></tr><tr><td>3 年</td><td>39</td><td>2</td></tr><tr><td>4 年</td><td>40</td><td>2</td></tr><tr><td>5 年</td><td>46</td><td>2</td></tr><tr><td>6 年</td><td>35</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>239</td><td>11</td></tr></table>		学年	2030 年度		児童数	学級数	1 年	39	2	2 年	40	2	3 年	39	2	4 年	40	2	5 年	46	2	6 年	35	1	合計	239	11
	学校名	2020 年度		2030 年度																																																					
		児童数	学級数	児童数	学級数																																																				
	中筋小	93	6	41	5																																																				
	新田小	188	7	198	6																																																				
合 計	281	—	239	—																																																					
学年	2030 年度																																																								
	児童数	学級数																																																							
1 年	39	2																																																							
2 年	40	2																																																							
3 年	39	2																																																							
4 年	40	2																																																							
5 年	46	2																																																							
6 年	35	1																																																							
合計	239	11																																																							
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																																									
学校間 の距離	<table><tr><th>学校間距離</th><th>学校間移動時間（バス）</th><th>最も遠い集落からの距離</th></tr><tr><td>中筋小～新田小 4.4 km</td><td>約 13 分 （20 km/h）</td><td>市谷 ⇒ 新田小 7.6 km 百合地 ⇒ 中筋小 6.4 km</td></tr></table>						学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離	中筋小～新田小 4.4 km	約 13 分 （20 km/h）	市谷 ⇒ 新田小 7.6 km 百合地 ⇒ 中筋小 6.4 km																																													
	学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離																																																						
中筋小～新田小 4.4 km	約 13 分 （20 km/h）	市谷 ⇒ 新田小 7.6 km 百合地 ⇒ 中筋小 6.4 km																																																							
再編の 優先度	B：5～10 年後																																																								
再編の 理由等	【今後の姿】 ○中筋小学校は、このまま児童数の減少が続くと、2030 年度には児童数が 50 人を下回り、10 年以内に複式学級が生じるものと見込まれる。																																																								
	【再編の考え方】 ○中筋小学校、新田小学校の再編により、中筋小学校の複式学級が解消できるだけでなく、10 年後の姿においても、ほとんどの学年でクラス替えが可能な規模が確保できる。																																																								
	【課題】 ○将来的に、神美小学校を含めた検討も必要と考える。																																																								

No.2 港小学校、城崎小学校の再編

■検討対象校：港小学校

児童数 学級数 見込み	学校名	2020 年度		2030 年度		⇒	学年	2030 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数			児童数	学級数
	港東小	50	5	58	6		1 年	24	1
	港西小	42	4				2 年	24	1
	城崎小	153	6	88	6		3 年	25	1
	合 計	245	—	146	—		4 年	25	1
							5 年	25	1
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。							6 年	23	1
※港東小、港西小は 2021 年度に統合予定							合計	146	6
学校間 の距離	学校間距離		学校間移動時間（バス）		最も遠い集落からの距離				
	港小～城崎小 4.2 km		約 13 分 （20 km/h）		三原 ⇒ 城崎小 10.2 km 二見 ⇒ 港小 8.8 km				
再編の 優先度	C：10 年以降								
再編の 理由等	【今後の姿】								
	○港小学校は、2021 年度に港東小学校と港西小学校の統合により設置される。港東小学校と港西小学校の 2020 年度の児童数の合計は 92 人だが、このまま児童数の減少が続くと、2030 年度には 60 人程度となり、10 年～15 年以内に複式学級が生じるものと見込まれる。								
	○城崎小学校は、20 人以下の学年が増えつつあり、2030 年度には 90 人程度、1 学年あたり 15 人程度となる見込みである。								
	【再編の考え方】								
再編の 理由等	○港小学校の近隣の小学校は城崎小学校しかないこと、学校間の距離が比較的近いこと等から、旧市町域を越えた再編を検討する必要がある。								
	○両校の再編により、港小学校で将来的に予測される複式の解消が図れるほか、1 学年複数クラスとはならないものの、20 人以上の学級規模を確保できる。								
	【課題】								
	○旧市町域を越えた再編となること。								
再編の 理由等	○再編しても各学年が単学級である。								
	○港東小学校・港西小学校は、2021 年度に統合する予定であり、10 年程度で再度の再編となる。								
	○先に港中学校・城崎中学校の再編を進め、将来的には、施設一体型小中一貫校とすることも検討する必要があると考える。								

No.3 竹野小学校、中竹野小学校、竹野南小学校の再編

■検討対象校：中竹野小学校、竹野南小学校

児童数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>竹野小</td><td>107</td><td>6</td><td rowspan="2">87</td><td rowspan="2">6</td></tr><tr><td>中竹野小</td><td>23</td><td>3</td></tr><tr><td>竹野南小</td><td>24</td><td>3</td><td>22</td><td>3</td></tr><tr><td>合 計</td><td>154</td><td>—</td><td>109</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		児童数	学級数	児童数	学級数	竹野小	107	6	87	6	中竹野小	23	3	竹野南小	24	3	22	3	合 計	154	—	109	—		<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>16</td><td>1</td></tr><tr><td>2 年</td><td>17</td><td>1</td></tr><tr><td>3 年</td><td>17</td><td>1</td></tr><tr><td>4 年</td><td>19</td><td>1</td></tr><tr><td>5 年</td><td>25</td><td>1</td></tr><tr><td>6 年</td><td>15</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>109</td><td>6</td></tr></table>		学年	2030 年度		児童数	学級数	1 年	16	1	2 年	17	1	3 年	17	1	4 年	19	1	5 年	25	1	6 年	15	1	合計	109	6
	学校名	2020 年度		2030 年度																																																								
		児童数	学級数	児童数	学級数																																																							
	竹野小	107	6	87	6																																																							
	中竹野小	23	3																																																									
	竹野南小	24	3	22	3																																																							
合 計	154	—	109	—																																																								
学年	2030 年度																																																											
	児童数	学級数																																																										
1 年	16	1																																																										
2 年	17	1																																																										
3 年	17	1																																																										
4 年	19	1																																																										
5 年	25	1																																																										
6 年	15	1																																																										
合計	109	6																																																										
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																																												
※中竹野小は竹野小と 2022 年度に統合予定																																																												
学校間 の距離	学校間距離		学校間移動時間（バス）		最も遠い集落からの距離																																																							
	(竹野中まで) 竹野小 1.0 km 中竹野小 4.0 km 竹野南小 10.4 km		竹野南小 ⇒ 竹野中 約 31 分 (20 km/h)		(竹野中まで) 三原 ⇒ 19.7 km																																																							
配 置	竹野中学校敷地内に校舎を新設し、施設一体型小中一貫校とする。																																																											
再編の 優先度	S：最優先																																																											
再編の 理由等	【今後の姿】 ○中竹野小学校は、2022 年度に竹野小学校と統合予定である。 ○竹野南小学校は、2020 年度の児童数は 24 人で、基準上では完全複式となっている。2030 年度の児童数は 20 人程度となる見込みである。																																																											
	【再編の考え方】 ○竹野小学校、中竹野小学校、竹野南小学校で再編した場合でも、2030 年度の全校児童は 110 人程度であり、1 学年 20 人に満たない見込みである。 ○竹野地域については、下記の理由により施設一体型小中一貫校とすることに適しているものとする。 - 施設一体型とした場合でも、児童生徒数の見込みから、学校の規模が大きくなり過ぎることがないこと。 - 既に 3 つの小学校の 6 年生が中学校へ登校して合同授業を行い、素地ができていること。 - 竹野中学校には、施設一体型小中一貫校とするために十分な敷地があること。 - 施設一体型小中一貫校とすることで、現在進めている小中一貫教育をより一層実効性のあるものとするができること。																																																											
	【課題】 ○竹野南小校区から竹野中学校までの通学距離が遠距離（20 km 程度）になる集落があることから、負担軽減のため、特段の配慮が必要である。 ○小中一貫教育のメリットを最大限生かすためには、施設一体型の学校施設にすることが望ましく、そのためには学校施設整備が必要である。																																																											

No.4 八代小学校、静修小学校、日高小学校の再編

■検討対象校：八代小学校、静修小学校

児童数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>八代小</td><td>37</td><td>4</td><td>10</td><td>3</td></tr><tr><td>静修小</td><td>43</td><td>5</td><td>29</td><td>3</td></tr><tr><td>日高小</td><td>458</td><td>14</td><td>282</td><td>12</td></tr><tr><td>合 計</td><td>538</td><td>—</td><td>321</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		児童数	学級数	児童数	学級数	八代小	37	4	10	3	静修小	43	5	29	3	日高小	458	14	282	12	合 計	538	—	321	—	⇨	<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>46</td><td>2</td></tr><tr><td>2 年</td><td>49</td><td>2</td></tr><tr><td>3 年</td><td>51</td><td>2</td></tr><tr><td>4 年</td><td>52</td><td>2</td></tr><tr><td>5 年</td><td>62</td><td>2</td></tr><tr><td>6 年</td><td>61</td><td>2</td></tr><tr><td>合計</td><td>321</td><td>12</td></tr></table>			学年	2030 年度		児童数	学級数	1 年	46	2	2 年	49	2	3 年	51	2	4 年	52	2	5 年	62	2	6 年	61	2	合計	321	12
	学校名	2020 年度		2030 年度																																																											
		児童数	学級数	児童数	学級数																																																										
	八代小	37	4	10	3																																																										
	静修小	43	5	29	3																																																										
	日高小	458	14	282	12																																																										
合 計	538	—	321	—																																																											
学年	2030 年度																																																														
	児童数	学級数																																																													
1 年	46	2																																																													
2 年	49	2																																																													
3 年	51	2																																																													
4 年	52	2																																																													
5 年	62	2																																																													
6 年	61	2																																																													
合計	321	12																																																													
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																																															
学校間の 距離	<table><tr><th>学校間距離</th><th>学校間移動時間（バス）</th><th>最も遠い集落からの距離</th></tr><tr><td>(日高小まで) 八代小 6.5 km 静修小 2.3 km</td><td>(日高小まで) 八代小 約 20 分(20 km/h) 静修小 約 7 分 (20 km/h)</td><td>(日高小まで) 小河江 ⇒ 日高小 10.5 km</td></tr></table>					学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離	(日高小まで) 八代小 6.5 km 静修小 2.3 km	(日高小まで) 八代小 約 20 分(20 km/h) 静修小 約 7 分 (20 km/h)	(日高小まで) 小河江 ⇒ 日高小 10.5 km																																																				
	学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離																																																												
	(日高小まで) 八代小 6.5 km 静修小 2.3 km	(日高小まで) 八代小 約 20 分(20 km/h) 静修小 約 7 分 (20 km/h)	(日高小まで) 小河江 ⇒ 日高小 10.5 km																																																												
※中間地点となる日高小へ再編した場合（仮定）																																																															
再編の 優先度	S：最優先																																																														
再編の 理由等	【今後の姿】																																																														
	○八代小学校は、基準上では2つの複式学級が生じている。今後6年間の新入生は1～3人で推移し、このまま児童数の減少が続くと、2030年度の児童数は10人程度となる見込みである。																																																														
	○静修小学校は、2020年度の新入生は2名のみであり、2021年度からは複数の複式学級が生じる見込みである。2030年度の児童数は30人程度となる見込みである。																																																														
	【再編の考え方】																																																														
	○八代小学校と静修小学校は、既に複式学級が生じており、早急な再編が必要である。																																																														
○八代小学校と静修小学校は小小連携教育を実施しており、同時に日高小と再編することにより、児童の環境の変化への負担軽減を図ることができる。																																																															
○日高小学校と再編することによりクラス替えが可能な1学年2クラスとすることができる。																																																															
【課題】																																																															
○3校同時の再編であり、地域等との十分な協議・調整が必要となる。																																																															
○通学距離が遠距離（10 km以上）になる集落がある。																																																															

No.5 三方小学校、清滝小学校の再編

■検討対象校：三方小学校、清滝小学校

児童数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>三方小</td><td>123</td><td>6</td><td>70</td><td>6</td></tr><tr><td>清滝小</td><td>82</td><td>6</td><td>54</td><td>6</td></tr><tr><td>合 計</td><td>205</td><td>—</td><td>124</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		児童数	学級数	児童数	学級数	三方小	123	6	70	6	清滝小	82	6	54	6	合 計	205	—	124	—		<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>16</td><td>1</td></tr><tr><td>2 年</td><td>18</td><td>1</td></tr><tr><td>3 年</td><td>20</td><td>1</td></tr><tr><td>4 年</td><td>19</td><td>1</td></tr><tr><td>5 年</td><td>30</td><td>1</td></tr><tr><td>6 年</td><td>21</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>124</td><td>6</td></tr></table>		学年	2030 年度		児童数	学級数	1 年	16	1	2 年	18	1	3 年	20	1	4 年	19	1	5 年	30	1	6 年	21	1	合計	124	6
	学校名	2020 年度		2030 年度																																																					
		児童数	学級数	児童数	学級数																																																				
	三方小	123	6	70	6																																																				
	清滝小	82	6	54	6																																																				
合 計	205	—	124	—																																																					
学年	2030 年度																																																								
	児童数	学級数																																																							
1 年	16	1																																																							
2 年	18	1																																																							
3 年	20	1																																																							
4 年	19	1																																																							
5 年	30	1																																																							
6 年	21	1																																																							
合計	124	6																																																							
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																																									
学校間の 距離	<table><tr><th>学校間距離</th><th>学校間移動時間 (バス)</th><th>最も遠い集落からの距離</th></tr><tr><td>三方小～清滝小 4.8 km</td><td>約 15 分 (20 km/h)</td><td>稲葉 ⇒ 三方小 11.1 km 羽尻 ⇒ 清滝小 8.3 km</td></tr></table>						学校間距離	学校間移動時間 (バス)	最も遠い集落からの距離	三方小～清滝小 4.8 km	約 15 分 (20 km/h)	稲葉 ⇒ 三方小 11.1 km 羽尻 ⇒ 清滝小 8.3 km																																													
	学校間距離	学校間移動時間 (バス)	最も遠い集落からの距離																																																						
三方小～清滝小 4.8 km	約 15 分 (20 km/h)	稲葉 ⇒ 三方小 11.1 km 羽尻 ⇒ 清滝小 8.3 km																																																							
再編の 優先度	C：10 年以降																																																								
再編の 理由等	【今後の姿】 ○清滝小学校は、このまま児童数の減少が続くと、2030 年度には児童数が 60 人を下回り、10～15 年度には複式学級が生じる見込みである。 ○三方小学校は、2030 年度には 70 人程度、2035 年度には児童数が 50 人を下回る見込みである。																																																								
	【再編の考え方】 ○複式学級が生じると見込まれる 10 年以降の姿を踏まえ、三方小学校と清滝小学校との再編について、地域と協議を始める必要がある。																																																								
	【課題】 ○再編しても各学年が単学級であり、20 人程度規模の学級人数が確保できない学年もある。 ○通学距離が遠距離（10 km 以上）になる集落がある。																																																								

No.6 寺坂小学校、福住小学校の再編

■検討対象校：寺坂小学校

児童数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>寺坂小</td><td>25</td><td>4</td><td>21</td><td>3</td></tr><tr><td>福住小</td><td>108</td><td>6</td><td>86</td><td>6</td></tr><tr><td>合 計</td><td>133</td><td>—</td><td>107</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		児童数	学級数	児童数	学級数	寺坂小	25	4	21	3	福住小	108	6	86	6	合 計	133	—	107	—	⇒	<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>15</td><td>1</td></tr><tr><td>2 年</td><td>17</td><td>1</td></tr><tr><td>3 年</td><td>16</td><td>1</td></tr><tr><td>4 年</td><td>17</td><td>1</td></tr><tr><td>5 年</td><td>19</td><td>1</td></tr><tr><td>6 年</td><td>23</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>107</td><td>6</td></tr></table>		学年	2030 年度		児童数	学級数	1 年	15	1	2 年	17	1	3 年	16	1	4 年	17	1	5 年	19	1	6 年	23	1	合計	107	6
	学校名	2020 年度		2030 年度																																																					
		児童数	学級数	児童数	学級数																																																				
	寺坂小	25	4	21	3																																																				
	福住小	108	6	86	6																																																				
合 計	133	—	107	—																																																					
学年	2030 年度																																																								
	児童数	学級数																																																							
1 年	15	1																																																							
2 年	17	1																																																							
3 年	16	1																																																							
4 年	17	1																																																							
5 年	19	1																																																							
6 年	23	1																																																							
合計	107	6																																																							
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																																									
学校間の 距離	<table><tr><th>学校間距離</th><th>学校間移動時間（バス）</th><th>最も遠い集落からの距離</th></tr><tr><td>寺坂小～福住小 3.8 km</td><td>約 12 分 （20 km/h）</td><td>寺坂 ⇒ 福住小 5.0 km 暮坂 ⇒ 寺坂小 10.6 km</td></tr></table>					学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離	寺坂小～福住小 3.8 km	約 12 分 （20 km/h）	寺坂 ⇒ 福住小 5.0 km 暮坂 ⇒ 寺坂小 10.6 km																																														
	学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離																																																						
寺坂小～福住小 3.8 km	約 12 分 （20 km/h）	寺坂 ⇒ 福住小 5.0 km 暮坂 ⇒ 寺坂小 10.6 km																																																							
再編の 優先度	S：最優先																																																								
説明	【今後の姿】 ○寺坂小学校は、既に基準上では複数の複式学級が生じている。また、今後の新入生は、1～2 人と極端に少ない年もみられ、このまま児童数の減少が続くと、全校児童数が 2030 年度には 20 人程度、2035 年度には 10 人程度と見込まれる。																																																								
	【再編の考え方】 ○寺坂小学校は、既に複式学級が生じており、早急な再編が必要である。 ○寺坂小学校と福住小学校は、現在、小小連携教育を実施していること。 ○寺坂小学校と福住小学校は、同じ旧室埴村内であり、歴史的な繋がりが保てるものとする。																																																								
	【課題】 ○再編しても各学年が単学級であり、20 人程度規模の学級人数が確保できない学年もあること。 ○通学距離が遠距離（10 km以上）になる集落がある。																																																								

No.7 小野小学校、小坂小学校の再編

■検討対象校：小野小学校

児童数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>小野小</td><td>58</td><td>6</td><td>33</td><td>4</td></tr><tr><td>小坂小</td><td>90</td><td>6</td><td>63</td><td>6</td></tr><tr><td>合 計</td><td>148</td><td>—</td><td>96</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		児童数	学級数	児童数	学級数	小野小	58	6	33	4	小坂小	90	6	63	6	合 計	148	—	96	—		<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>13</td><td>1</td></tr><tr><td>2 年</td><td>14</td><td>1</td></tr><tr><td>3 年</td><td>15</td><td>1</td></tr><tr><td>4 年</td><td>17</td><td>1</td></tr><tr><td>5 年</td><td>19</td><td>1</td></tr><tr><td>6 年</td><td>18</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>96</td><td>6</td></tr></table>		学年	2030 年度		児童数	学級数	1 年	13	1	2 年	14	1	3 年	15	1	4 年	17	1	5 年	19	1	6 年	18	1	合計	96	6
	学校名	2020 年度		2030 年度																																																					
		児童数	学級数	児童数	学級数																																																				
	小野小	58	6	33	4																																																				
	小坂小	90	6	63	6																																																				
合 計	148	—	96	—																																																					
学年	2030 年度																																																								
	児童数	学級数																																																							
1 年	13	1																																																							
2 年	14	1																																																							
3 年	15	1																																																							
4 年	17	1																																																							
5 年	19	1																																																							
6 年	18	1																																																							
合計	96	6																																																							
学校間の 距離	<table><tr><th>学校間距離</th><th>学校間移動時間（バス）</th><th>最も遠い集落からの距離</th></tr><tr><td>小野小～小坂小 4.1 km</td><td>約 12 分 （20 km/h）</td><td>奥小野 ⇒ 小坂小 7.0 km 片間 ⇒ 小野小 6.5 km</td></tr></table>					学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離	小野小～小坂小 4.1 km	約 12 分 （20 km/h）	奥小野 ⇒ 小坂小 7.0 km 片間 ⇒ 小野小 6.5 km																																														
学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離																																																							
小野小～小坂小 4.1 km	約 12 分 （20 km/h）	奥小野 ⇒ 小坂小 7.0 km 片間 ⇒ 小野小 6.5 km																																																							
再編の 優先度	A：やや急ぐ																																																								
再編の 理由等	【今後の姿】 ○小野小学校は、2026 年度までに児童数が 50 人を下回り、基準上では複式学級が生じる見込みである。 ○小坂小学校は、2026 年度には児童数が 60 人程度と、急激に児童数が減少する見込みである。																																																								
	【再編の考え方】 ○小野小学校は、近い将来には複式学級が生じること、小坂小学校についても、今後、急激に児童数の減少が見込まれることから、学校再編が必要となる。 ○出石地域の北部での隣接校であり、学校間の距離も 4km 程度と、比較的近距離である。 【課題】 ○再編しても各学年が単学級であり、20 人程度規模の学級人数が確保できない学年もあること。																																																								

No.8 高橋小学校、合橋小学校の再編

■検討対象校：高橋小学校

児童数 学級数 見込み	学校名	2020 年度		2030 年度		⇒	学年	2030 年度	
		児童数	学級数	児童数	学級数			児童数	学級数
	高橋小	28	4	16	3		1 年	7	1
	合橋小	64	6	38	5		2 年	9	1
	合 計	92	—	54	—		3 年	8	1
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。							4 年	8	1
							5 年	8	1
							6 年	14	1
							合計	54	6
学校間の 距離	学校間距離		学校間移動時間（バス）		最も遠い集落からの距離				
	高橋小～合橋小 9.7 km		約 29 分（20 km/h）		天谷 ⇒ 高橋小 14.5 km 大河内 ⇒ 合橋小 13.1 km				
再編の 優先度	S：最優先								
再編の 理由等	【今後の姿】								
	○高橋小学校は、既に基準上では複数の複式学級が生じている。また、今後の新入生は、1人や0人の年もあるなど、極端に少ない状況が続く見込みである。								
	○合橋小学校は、2026 年度には児童数が 50 人を下回り基準上では複式学級が生じる見込みである。								
	【再編の考え方】								
	○高橋小学校は、既に複式学級が生じており、早急な再編が必要である。								
○合橋小学校についても、6 年後には複式学級が生じる見込みである。									
○資母小学校、但東中学校とともに、施設一体型小中一貫校とすることが望ましいと考えるが、高橋小学校と合橋小学校との再編を先行する。									
【課題】									
○短い期間中に 2 度の再編となること。									
○通学距離が遠距離（10 km 以上）になる集落があること。									

No.9 合橋小学校、高橋小学校、資母小学校の再編

■検討対象校：合橋小学校、高橋小学校、資母小学校

児童数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>合橋小</td><td>64</td><td>6</td><td>38</td><td>5</td></tr><tr><td>高橋小</td><td>28</td><td>4</td><td>16</td><td>3</td></tr><tr><td>資母小</td><td>64</td><td>6</td><td>37</td><td>4</td></tr><tr><td>合 計</td><td>156</td><td>—</td><td>91</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		児童数	学級数	児童数	学級数	合橋小	64	6	38	5	高橋小	28	4	16	3	資母小	64	6	37	4	合 計	156	—	91	—	⇒	<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>児童数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>12</td><td>1</td></tr><tr><td>2 年</td><td>15</td><td>1</td></tr><tr><td>3 年</td><td>14</td><td>1</td></tr><tr><td>4 年</td><td>14</td><td>1</td></tr><tr><td>5 年</td><td>14</td><td>1</td></tr><tr><td>6 年</td><td>22</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>91</td><td>6</td></tr></table>			学年	2030 年度		児童数	学級数	1 年	12	1	2 年	15	1	3 年	14	1	4 年	14	1	5 年	14	1	6 年	22	1	合計	91	6
	学校名	2020 年度		2030 年度																																																											
		児童数	学級数	児童数	学級数																																																										
	合橋小	64	6	38	5																																																										
	高橋小	28	4	16	3																																																										
	資母小	64	6	37	4																																																										
合 計	156	—	91	—																																																											
学年	2030 年度																																																														
	児童数	学級数																																																													
1 年	12	1																																																													
2 年	15	1																																																													
3 年	14	1																																																													
4 年	14	1																																																													
5 年	14	1																																																													
6 年	22	1																																																													
合計	91	6																																																													
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																																															
学校間 の距離	学校間距離		学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離																																																											
	(但東中まで) 合橋小 2.1 km 高橋小 9.5 km 資母小 6.9 km		高橋小 ⇒ 但東中 約 29 分 (20 km/h)	大河内 ⇒ 但東中 12.9 km																																																											
配 置	但東中学校敷地内に校舎を新設し、施設一体型小中一貫校とする。																																																														
再編の 優先度	A：やや急ぐ																																																														
再編の 理由等	【今後の姿】 ○高橋小学校は、既に基準上では複数の複式学級が生じている。また、今後の新入生は、1人や0人の年もある等、極端に少ない状況が続く見込みである。 ○合橋小学校、資母小学校は、2026 年度には児童数が 50 人を下回り基準上では複式学級が生じる見込みである。																																																														
	【再編の考え方】 ○合橋小学校、高橋小学校、資母小学校で再編した場合でも、2030 年度の全校児童は 90 人程度であり、1 学年 20 人に満たない見込みである。 ○但東地域については、下記の理由により施設一体型小中一貫校とすることに適しているものとする。 ・施設一体型とした場合でも、児童生徒数の見込みから、学校の規模が大きくなり過ぎることがないこと。 ・3つの小学校の6年生が但東中学校での体験授業を行う「ハッピースクールプロジェクト」や、但東中学校は兵庫県での小中一貫教育のモデル校であったことなどの実績があり、素地ができていていること。 ・但東中学校には、施設一体型小中一貫校とするために十分な敷地があること。 ・施設一体型小中一貫校とすることで、現在進めている小中一貫教育をより一層実効性のあるものとするができること。																																																														
	【課題】 ○通学距離が遠距離（10 km以上）になる集落があること。 ○小中一貫教育のメリットを最大限生かすためには、施設一体型の学校施設にすることが望ましく、そのためには学校施設整備が必要であること。																																																														

(2) 中学校の再編

No.10 港中学校、城崎中学校の再編

■検討対象校：港中学校、城崎中学校

生徒数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>生徒数</th><th>学級数</th><th>生徒数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>港中</td><td>62</td><td>3</td><td>46</td><td>3</td></tr><tr><td>城崎中</td><td>66</td><td>3</td><td>60</td><td>3</td></tr><tr><td>合 計</td><td>128</td><td>—</td><td>106</td><td>—</td></tr></table>				学校名	2020 年度		2030 年度		生徒数	学級数	生徒数	学級数	港中	62	3	46	3	城崎中	66	3	60	3	合 計	128	—	106	—		<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>生徒数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>33</td><td>1</td></tr><tr><td>2 年</td><td>35</td><td>1</td></tr><tr><td>3 年</td><td>38</td><td>1</td></tr><tr><td>合計</td><td>106</td><td>3</td></tr></table>			学年	2030 年度		生徒数	学級数	1 年	33	1	2 年	35	1	3 年	38	1	合計	106	3
	学校名	2020 年度		2030 年度																																													
		生徒数	学級数	生徒数	学級数																																												
	港中	62	3	46	3																																												
	城崎中	66	3	60	3																																												
合 計	128	—	106	—																																													
学年	2030 年度																																																
	生徒数	学級数																																															
1 年	33	1																																															
2 年	35	1																																															
3 年	38	1																																															
合計	106	3																																															
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																																	
学校間の 距離	学校間距離		学校間移動時間（バス）		最も遠い集落からの距離																																												
	港中～城崎中 4.3 km		約 13 分（20 km/h）		三原 ⇒ 城崎中 10.3 km 二見 ⇒ 港中 9.9 km																																												
再編の 優先度	B：5～10 年後																																																
再編の 理由等	【今後の姿】 ○港中学校は、2020 年度の生徒数は 62 人で、2030 年度には 50 人を下回る見込みであり、集団活動や部活動等、様々な面で課題が生じてきている。 ○城崎中学校については、2020 年度の生徒数は 66 人で、一旦上昇するものの、その後は減少に転じ、2030 年度には 60 人、翌 2031 年度には 54 人程度となる見込みである。																																																
	【再編の考え方】 ○港中学校の近隣の中学校は城崎中学校しかないこと、学校間の距離が比較的近いこと等から、旧市町域を越えた再編を検討する必要がある。 ○再編により、1 学年複数クラスにはならないものの、各学級である程度の集団規模の生徒数が確保でき、集団活動や部活動等の幅を広げることができる。																																																
	【課題】 ○旧市町域を越えた再編となること。 ○再編しても単学級となること。 ○通学距離が遠距離（10 km 以上）となる集落があること。 ○将来的に、港小学校と城崎小学校の再編も検討が必要であり、港・城崎の施設一体型小中一貫校とすることも検討する必要があること。 ○港中学校、城崎中学校とも、部活動等の課題が生じていることから、再編までに学校間交流や部活動の連携を進める必要があること。																																																

No.11 日高西中学校、日高東中学校の再編

■検討対象校：日高西中学校

生徒数 学級数 見込み	<table><tr><th rowspan="2">学校名</th><th colspan="2">2020 年度</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>生徒数</th><th>学級数</th><th>生徒数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>日高西中</td><td>102</td><td>3</td><td>64</td><td>3</td></tr><tr><td>日高東中</td><td>343</td><td>10</td><td>258</td><td>9</td></tr><tr><td>合 計</td><td>445</td><td>—</td><td>322</td><td>—</td></tr></table>	学校名	2020 年度		2030 年度		生徒数	学級数	生徒数	学級数	日高西中	102	3	64	3	日高東中	343	10	258	9	合 計	445	—	322	—	⇒	<table><tr><th rowspan="2">学年</th><th colspan="2">2030 年度</th></tr><tr><th>生徒数</th><th>学級数</th></tr><tr><td>1 年</td><td>107</td><td>3</td></tr><tr><td>2 年</td><td>112</td><td>3</td></tr><tr><td>3 年</td><td>103</td><td>3</td></tr><tr><td>合計</td><td>322</td><td>9</td></tr></table>	学年	2030 年度		生徒数	学級数	1 年	107	3	2 年	112	3	3 年	103	3	合計	322	9
			学校名	2020 年度		2030 年度																																						
		生徒数		学級数	生徒数	学級数																																						
		日高西中	102	3	64	3																																						
		日高東中	343	10	258	9																																						
	合 計	445	—	322	—																																							
学年	2030 年度																																											
	生徒数	学級数																																										
1 年	107	3																																										
2 年	112	3																																										
3 年	103	3																																										
合計	322	9																																										
(注) 学級数は、特別支援学級を除く。																																												
学校間 の距離	<table><tr><th>学校間距離</th><th>学校間移動時間（バス）</th><th>最も遠い集落からの距離</th></tr><tr><td>日高西～日高東中 6.9 km</td><td>約 21 分（20 km/h）</td><td>稲葉 ⇒ 日高東中 19.6 km 小河江 ⇒ 日高西中 14.9 km</td></tr></table>			学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離	日高西～日高東中 6.9 km	約 21 分（20 km/h）	稲葉 ⇒ 日高東中 19.6 km 小河江 ⇒ 日高西中 14.9 km																																			
	学校間距離	学校間移動時間（バス）	最も遠い集落からの距離																																									
日高西～日高東中 6.9 km	約 21 分（20 km/h）	稲葉 ⇒ 日高東中 19.6 km 小河江 ⇒ 日高西中 14.9 km																																										
再編の 優先度	C：10 年以降																																											
再編の 理由等	【今後の姿】 ○日高西中学校には、2030 年度には 64 人程度となる見込みである。																																											
	【再編の考え方】 ○市内の他の中学校では、生徒数が 60 人程度になると、集団活動や部活動等での課題が大きくなっていることから、再編について検討を行う必要がある。 ○日高西中学校については、再編により、クラス替えが可能な規模となる。																																											
	【課題】 ○通学距離が遠距離（20 km 近く）になる集落があること。																																											

第5章 学校再編を進めるにあたっての付帯意見

小中学校の適正規模・適正配置を進めるにあたって、より良い学校再編となるよう、審議会から教育委員会に対し、特に留意してもらいたいこととして、次のとおり意見をまとめます。

【児童生徒への配慮】

学校再編により、児童生徒は新たな友だちや教職員等と、新たな人間関係の構築が必要となります。また、学校の環境や通学方法等も変わることから、新たな学校生活にスムーズに移行できるよう、事前の学校間交流の実施や、教職員の配置への配慮等、児童生徒の心身の負担軽減に向けた対応を講じる必要があると考えます。

また、特別な支援が必要な子どもについては、急激な環境変化によって混乱が生じることのないよう、特に配慮する必要があります。

【通学への配慮】

通学時間に1時間近くを要することは、子どもたちにとって精神的・体力的に大きな負担となります。したがって、通学が遠距離となる場合には、負担軽減・通学時間の短縮のために、どのような方法があるのか、様々な可能性について検討する必要があると考えます。また、通学路の安全確保や、地域での見守り活動等についても、地域と一体となって調整していく必要があります。

【放課後児童クラブ利用者への配慮】

豊岡市の方針として、放課後児童クラブは、子どもたちの安全性の確保の観点から、小学校施設内あるいは隣接して置くことが基本とされています。したがって、学校再編により、放課後児童クラブについても再編されることになると思われますが、再編後においては、受入体制の確保や児童・保護者の負担軽減についても検討する必要があると考えます。

【魅力ある学校づくり】

再編後の学校のあり方については、保護者や学校関係者、教育委員会がより良い教育環境を整えるための思いを共有し、地域と学校が両輪となって、魅力（夢）のある学校の将来ビジョンを描くことが大切であると考えます。

そのためには、地域の多様な伝統・慣習や文化、過去の学校再編の経緯、地域住民の学校への「誇り」、「愛着」等も配慮し、丁寧に対応していく必要があると考えます。

また、これまで実施してきた、その学校ならではの特色のある教育や、ふるさと教育について、再編後、どのように受け継いでいくのか、更には、地域コミュニティ組織との連携の強化や、コミュニティ・スクール^{※6}等の導入についても検討が必要であると考えます。

【地域活動の拠点としての活用（学校の跡地利用）】

学校は、教育施設としての機能だけではなく、地域コミュニティにおける、文化・スポーツの振興や防災拠点としての機能も有しています。文化祭や運動会等の地区行事については、学校を舞台としたものも多くあることから、学校の跡地利用については、これらの機能に留意しながら、地域コミュニティ等の活動が後退することのないよう、関係部局との検討が必要であると考えます。

【その他】

・ 分散進学の解消（豊岡小学校）

豊岡小学校については、豊岡北中学校と豊岡南中学校に分散して進学しています。小中学校のあり方意見交換会でも分散進学の解消を望む意見があったことから、別途、機会を設け、協議する必要があると考えます。

・ ICTの活用

地理的要因等により、これ以上の再編を進めることが難しい場合、多様な考えに触れるための対応策として、遠隔授業やオンライン授業等のICT技術の導入について、検討を進める必要があると考えます。

⁶ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

保護者や地域のニーズを反映させるために、地域住民が学校運営に参画できるようにする仕組や考え方を有する形態の学校のこと。学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める。

おわりに

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会では、教育委員会からの諮問を受け、学校の適正規模・適正配置のあり方について、慎重審議を重ねてきました。現在、豊岡市では、少子化に伴う学校の小規模化が進行しています。その中で、特に未就学児の保護者からは、「自分は、この地区が大好きだ。ずっと住み続けたいと思っているが、子どもの将来を考えると、なるべく大勢の中で学ばせてやりたい」と、早期の学校再編を希望する声が聞こえてきています。本審議会では、そういった意見が出ている学校、特に複式学級の解消を最優先に考え、審議してまいりました。

本答申をもちまして、本審議会としての方向性を示しましたが、今回の検討対象校以外についても、ある程度の集団規模を確保し、多様な考えに触れることができる学校規模とすることができるよう、児童生徒数の推移に注視しつつ、欠学年の発生や複式学級が編制される前の早い段階から具体的な検討を進めるとともに、地域との継続的な話し合いの場が必要になってきます。

豊岡市は、これまでからコミュニケーション能力の育成に力を入れられ、また、この4月からは兵庫県立芸術文化観光専門職大学が開校する等、市がめざす「小さな世界都市」への土台作りが着々と進んでいます。

この答申が、様々な方々との議論のきっかけとなり、小さな世界都市をめざす「豊岡の未来を創造する力を持った子どもを育む」ためのより良い教育環境づくりに繋がることを強く望みます。

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会

会 長 浅野 良一

資 料 編

豊岡市条例第63号

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例

(設置)

第1条 豊岡市立小学校及び中学校（以下「学校」という。）の適正規模及び適正配置に関する計画を策定するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、豊岡市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の附属機関として、豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項について審議し、答申する。

- (1) 学校の適正規模に関すること。
- (2) 学校の適正配置に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、委員18人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学識経験のある者
- (2) 教育・保育関係者
- (3) 市民
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、任命の日から第2条に規定する所掌事務が終了する日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長各1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により選任する。
- 3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議は、会長がこれを招集し、議長となる。

- 2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は必要な説明若しくは資料の提出を求めることができる。

(部会)

第7条 審議会は、必要に応じて部会を置くことができる。

(守秘義務)

第8条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また同様とする。

(庶務)

第9条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(招集の特例)

2 委員の任命後最初に開かれる審議会の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。

(失効)

3 この条例は、第2条に定める答申の日限り、その効力を失う。

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会委員

(敬称略・順不同)

区 分	氏 名	所 属 等	備 考
学識経験のある者	浅野 良一	兵庫教育大学大学院 教授	会 長
	中川 茂	元豊岡市教育委員会委員	副会長
教育・保育関係者	西谷 佳代	竹野小学校長	
	中島 章博	但東中学校長	
	河本 美佳	港認定こども園長	
	西垣 浩文	城崎こども園長	
市 民	宮崎 裕紀	竹野認定こども園PTA副会長	
	二方 道正	港西小学校PTA会長	
	平尾 洋	出石中学校PTA会長	
	澤田 雅子	チャイルドハウス保育園保護者会副会長	
	小田 知子	子育てグループ「元気 i n g」会員 英語遊び保育指導員	
	高階 正夫	日高地区区長協議会長	
	増田 克志	竹野中学校学校評議員、竹野小学校学校 評議員	
	加藤 勉	小野小学校学校評議員	
関係行政機関の職員	綱木 直美	城崎子育てセンター指導員	
	貝口 志保	但東子育てセンター指導員	
教育委員会が必要と認める者	藤田 明治郎	豊岡市社会福祉協議会副理事長	
	木村 尚子	一般社団法人暮らしの学校農楽 ^{の～ら} 代表理事	

○任命年月日 2020年2月3日 ※所属等の肩書は任命時点

豊教総第281号

2020年2月3日

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会

会 長 様

豊岡市教育委員会

教育長 嶋 公治

諮問書

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例第2条の規定により、次の事項について諮問します。

- 1 豊岡市立小中学校における適正規模・適正配置のあり方について

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会 開催経過・審議内容

	開催日	内 容
第1回	2020年2月3日	1 辞令交付 2 会長および副会長の選任 3 諮問 4 議 事 (1) 市の現状について（人口、児童・生徒数、複式学級の状況と今後の見込み） (2) 会議等の情報公開について (3) 今後のスケジュール（案）について
第2回	2020年7月1日	1 報告事項 (1) 市の現状について (2) 他市の適正規模・適正配置の考え方について (3) 「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画（案）」について (4) 極小規模校の授業風景について（ビデオ視聴） 2 協議事項 (1) 豊岡市における望ましい適正規模・適正配置について (2) 地域別意見交換会の開催方法等について
第3回	2020年8月3日	1 報告事項 (1) 第2回審議会の補足事項について 2 協議事項 (1) 市における小中学校適正規模・適正配置にかかる考え方の素案について (2) 地域別意見交換会の進め方等（案）について
第4回	2020年11月30日	1 報告事項 (1) 五荘小学校・奈佐小学校、港東小学校・港西小学校の統合準備委員会での調整協議終了について (2) 中竹野小学校の統合に関する要望書について 2 協議事項 (1) 適正規模・適正配置（案）及び再編の枠組み（案）についての再検討について（地域別意見交換会での意見等を踏まえての見直し）
第5回	2020年12月21日	1 協議事項 (1) 答申（案）について
第6回	2021年1月19日	1 協議事項 (1) 答申（案）について
第7回	2021年2月10日	1 協議事項 (1) 答申（案）について ※第7回審議会終了後、答申を手交

小中学校のあり方意見交換会 開催結果等

1 概 要

「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会」での中間案である、①適正規模・適正配置の考え方、②再編の枠組み（案）について、保護者・地域住民との意見交換を行った。出された意見等については、審議会で協議し、答申の参考とした。

2 意見交換会の開催日程と参加者

(1) 保護者向け

日 程	豊岡 9/23	出石 9/25	竹野 9/28	城崎、港 9/30	日高 10/2	但東 10/6	合計
参加者数	46	29	41	32	46	46	240

(2) 地域向け

日 程	豊岡 10/13	城崎、港 10/20	日高 10/23	但東 10/26	出石 10/28	竹野 10/29	合計
参加者数	39	37	55	41	32	35	239

9/23～10/29 全 12 回 市内 6 会場 延べ参加者数 479 名

3 主な説明内容

- (1) 豊岡の教育（対話的な学び、非認知能力・コミュニケーション能力の育成）
- (2) 児童生徒数の推移と複式学級の状況（複式学級の授業風景のビデオ視聴含む）
- (3) 小中学校適正規模・適正配置の考え方と再編の枠組（案）
- (4) 保護者の意見紹介（地域向け意見交換会のみ）

4 意見交換・アンケートでの主な意見（関連項目のみ記載）

(1) アンケート結果

	参加者数	アンケート 回答数	学校再編に 賛成	学校再編には 反対	賛否の 記述なし
保護者向け	240	132	54 (40.9%)	5 (3.8%)	73 (55.3%)
地域住民向け	239	103	37 (35.9%)	12 (11.7%)	54 (52.4%)

・自由記載の回答を、分類したもの。（学校再編の賛否について尋ねたものではない。）
 なお、分類の振り分けは、記述された内容から類推したものも含まれる。

(2) 主な意見（意見交換・アンケートから）

ア 複式学級の解消

- (ア) 複式学級は早期に解消してほしい。
- (イ) 複式学級の授業風景をみて、自分の子どもは、なじめそうにないと感じた。子どもも、先生も大変だと思う。

イ 適正規模・適正配置

- (ア) 一人一人に目が行き届く、20 人程度という規模は良いと思う。
- (イ) 再編して、数年後に再々編することがないよう、もっと大きな枠組みで検討すべきではないか。

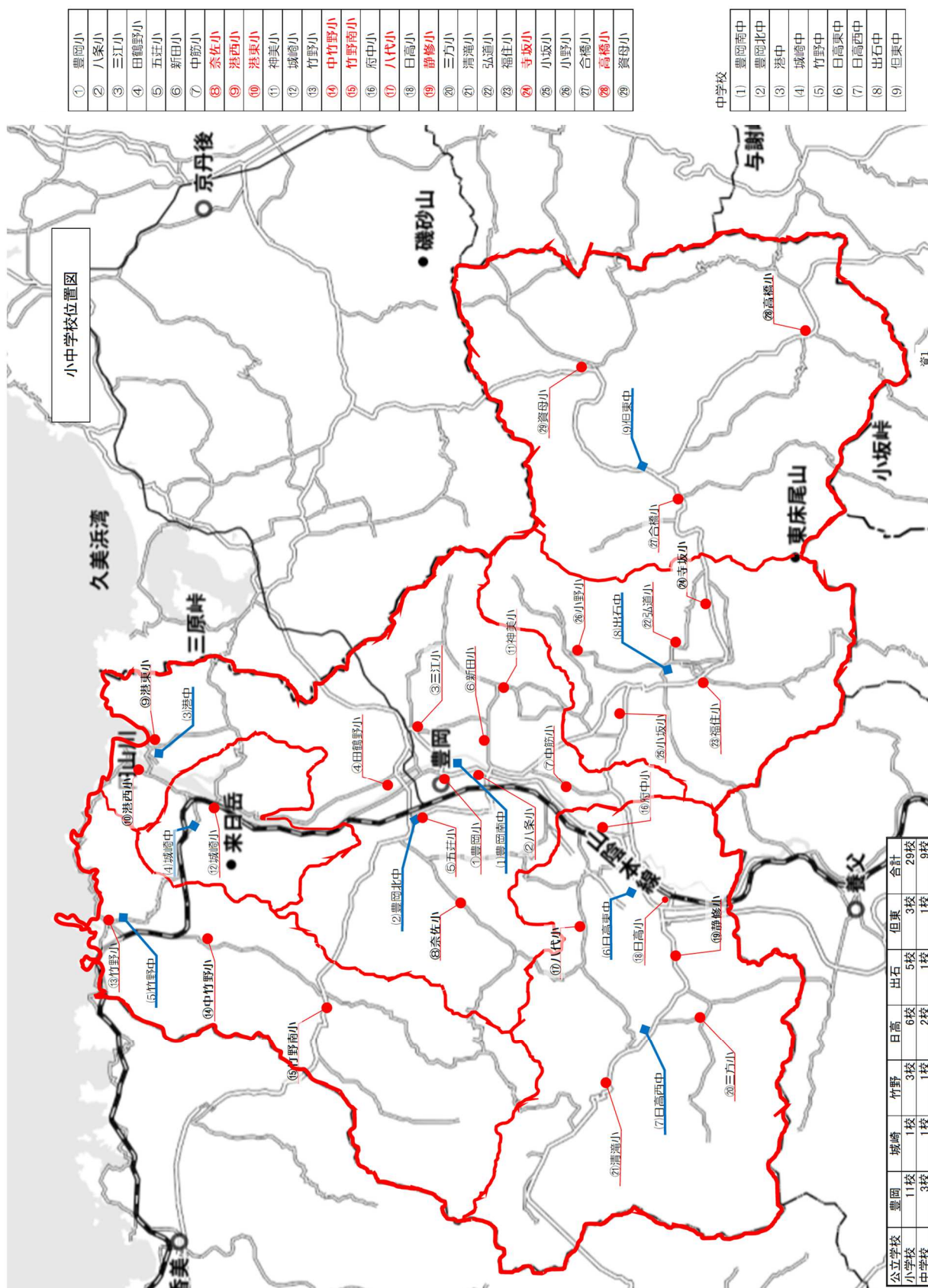
ウ 再編の進め方

- (ア) 保護者と地域の方とでは考え方が違うが、子どものことを第一に考え、市主導で再編を進めてほしい。
- (イ) スピード感は必要だが、小規模校側の子どもの負担や、地域の事を考え、丁寧に進めてほしい。

エ その他

- (ア) 学校の再編だけではなく、少子化対策についても進めるべきではないか。
- (イ) 「学校の再編によって、こんな魅力のある教育ができる」等、夢や希望のある話をしてほしい。

小中学校配置図



豊岡市内の小中学校の統合の沿革（1950 年以降）

1 小学校

	統合年	統 合 先	名 称
市町 合併前	1968 年	合橋小学校	矢根小学校 河本小学校 相田小学校 唐川小学校
		高橋小学校	久畑小学校、久畑小学校薬王寺分校 平田小学校
		資母小学校	資母小学校 中藤小学校 赤花小学校 太田小学校
	1970 年	五荘小学校	五荘西小学校 五荘東小学校
	1987 年	竹野南小学校	椒小学校 大森小学校 三原小学校 森本小学校
	1998 年	福住小学校	福住小学校 菅谷小学校
市町 合併後	2013 年	清滝小学校	清滝小学校 西気小学校

※分校の廃止は除く

2 中学校

	統合年	統合先	対 象 校
市町 合併前	1954 年	出石中学校	出石中学校 室埴中学校 小坂中学校 神美中学校小野分校 (本校は 1957 年分村により豊岡市に編入)
	1965 年	日高東中学校	日高中学校 府中中学校 八代中学校
	1965 年	日高西中学校	三方中学校 清滝中学校 西気中学校
	1966 年	竹野中学校	中竹野中学校 竹野中学校
	1967 年	但東中学校	高橋中学校 合橋中学校
	1968 年	豊岡北中学校	豊岡北中学校 奈佐中学校
	1976 年	豊岡南中学校	豊岡南中学校 神美中学校
	2004 年	但東中学校	但東北中学校 (1981 年資母中から改称) 但東中学校
市町 合併後	2015 年	竹野中学校	竹野中学校 森本中学校

※分校の廃止は除く